



のがみ公民館たより

発行：2026（令和）8年4月、野上公民館

【多様性とは】

「多様性」という言葉、最近いろいろな場面で耳にします。どんな意味で使われているのか、少し掘り下げて見ましょう。

多様性の意味

「多様性」は、「違いを前提に、一人ひとりを尊重し合うこと」という考え方です。

例えば次のような違いが含まれます。

性別や年齢、国籍や文化、言語・障がいの有無、性的指向・性自認、性格や価値観、働き方、家族のあり方など「みんな同じに合わせる」のではなく、「違いがあるからこそ良い」「違いを持ったまま関われる社会をつくる」という方向性を指します。

多様性が大切にされる理由として、よく挙げられるのは次のような点です。

- ・いろいろな視点が集まることで、新しいアイデアや解決策が生まれやすくなる
- ・少数派が排除されず、誰もが自分らしく生きやすくなる
- ・「普通」から外れた人が生きづらさを抱えにくい社会につながる

一方で、「人それぞれだから関わらなくていい」という形になると、かえって分断を深めてしまう懸念も指摘されています。

そのため、多様性は「放っておく」ことではなく、「違いを理解しようとする姿勢」と考えられることが多いようです。

生物や自然の世界の多様性

社会だけでなく、「生物多様性」という言葉もあります。こちらは、種類がたくさんあること、それぞれがつながり合って生態系を形づくっていること、同じ種類の中にも個性や違いがあることといった「いのちの豊かさ全体」を指します。

多様性とどう関わるか

個人としてできることは、大きく言うと次のような姿勢です。

- ・「自分と違う」からすぐ否定せず、「なぜ、そう感じるんだろう」と一度立ち止まる
- ・知らないことは、静かに調べたり、相手に聞きたいして学んでいく
- ・自分自身の「ふつう」も、数ある一つのスタイルにすぎないと捉えてみる

完璧に理解することより、「わからないけれど、傷つけないように関わりたい」という姿勢が大切

です。

裏面に続く

多様性への理解を深めるには

多様性とは、聞き慣れてきたからこそ「どうやって理解を深めればいいのか」と迷うこともあります。

自分の「当たり前」を疑う

多様性の理解は、相手を知る前に、自分の前提に気づくところから始まります。

例えば

- ・家族の形について「これが普通」と思っていること
- ・男性らしさ、女性らしさについて無意識に持っているイメージ
- ・「ちゃんとしている人はこうあるべき」という考え

こうした前提に気づくと、「自分とは違うあり方」が見えたときに、少し立ち止まって考えやすくなります。

日常で意識できる小さな行動としては

- ・初対面の人に「普通こうだよ」と決めつける言い方を避ける
- ・わからない言葉や文化に出会ったら、まずは調べてから意見を持つ
- ・自分と違う選択をしている人を見たとき、「あれも一つの生き方かも」と一度心の中で言う
完璧に理解しようとするより、「知らないからこそ、丁寧に扱う」という姿勢のほうが現実的で続けやすいです。

多様性を考えるときの「自分の当たり前」を疑うということは、言葉では分かるけれど実際どうすればいいのかと思いますよね。次回は、「当たり前」について考えてみましょう。

公民館 2 年目に入りました。

昨年度は、皆さんにたくさん助けていただきながら、何とか 1 年を終えることができました。

今年度は、もっと気軽に集まっていただける公民館になるよう、みなさんの声をうかがいながら工夫していきたいと思います。よろしくお願いします。

井上

※図書人権コーナーに野上地区人権・部落差別解消啓発推進協議会から図書を寄贈いただきました。ご利用ください。